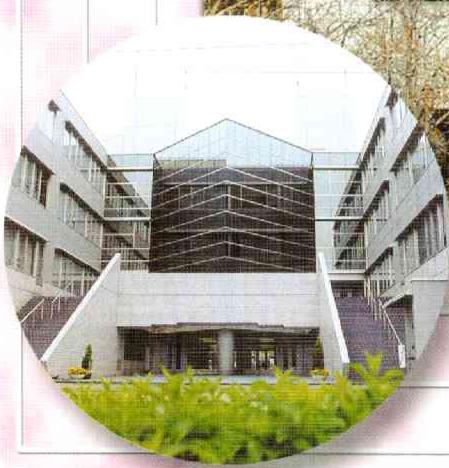


FOR YOU

2002年

朋友

第 18 号



東京電機大学中学・高等学校同窓会

## 若手幹事に期待

同窓会会长 小長谷 登 (S31年計測科卒)



同窓会員の皆様、そして中・高教職員の皆様には、日頃のご支援ご協力を心より感謝申し上げます。一期2年で退任すべきところ、成果が今ひとつためか再任となりました。そこで再度皆様の助言を期待しながら一期目を反省し、「初心に返れ」の気持ちで二期目の方針を述べ、挨拶とさせて頂きます。

一期目に幹事会から指摘された問題点

(1) 会社運営と違い、問題に対する意見交換が不自由であり分担も決めにくく、経験のある前任者にお願いするか会長一任になり易い。

(2) 役員の選出も、働き盛りで能力充実の年代は転勤出張など仕事が忙しく、時間的余裕が無く人選が難しい。

どちらの問題も、幹事会の出席率が低いことが大きな原因で、出席率を高めるため

・幹事会開催通知に、一通一通私の自筆で出席要請文を追記した。

・会出席のための交通費が無償だったものを、一律ではあるが支給するようにし幹事の負担を軽減した。

・欠席が多く出席しにくい方にも、情報が共有できるよう会の運営方針・年間予定・行動計画等を配布した。

また長年の懸案事項である活動の活性化には  
・機関誌「朋友」を読みやすくカラー化し、クラス会開催報告を重点的に掲載した。

・校友会の「しおり」を同窓会の広報の一環と位置づけ、中・高同窓会ページを写真中心に見やすいレイアウトにした。

(多くの会員に配布できるよう、クラス会開催のおり参加者全員に配布するようにした。)

・総会に多くの会員に出席してもらうため、小金井校舎における学校主催の卒業生招待会との同日開催を効果的と考え踏襲。

・幹事候補者難を解決するため先生方、PTA会長・副会長歴任者、クラス委員教職員懇談会出席者等に折衝。

以上、一期目の経緯でありますが、これらを踏まえ二期目の現在、以下のような施策に着手して

います。

・専門委員会の設置と充実

(1) 朋友・しおり委員会 徒来別々であったものを、同じ広報の役割を担うとして統合すると共に、委員長の元に若手の幹事を配属し育成を計る。

(2) 役員人事専門委員会 同窓会幹事・役員及び校友会評議委員・監事等、役員人事に関し支障の無いよう管理する。

(3) クラス会促進委員会 同窓会活動の活性化は、まずクラス会が活発に開催されることから始まると考え対策を検討中。

(4) 業務IT化委員会 同窓会活動も連絡・情報伝達・資料整理・管理等々、IT化に向け発進。特に、IT関連に強い若手幹事を登用する。

・インターネットによるホームページの開設、Eメールによる連絡、情報伝達の促進。  
・同窓会活動の資料をデータベース化、いつも誰でも簡単に閲覧できるようにし、資料の蓄積と引き継ぎ等も支障の無いようにする。  
・委員長の元に多くの若手の幹事を配属し育成、若い風を吹き込むとともに、新しい時代の同窓会運営のあり方を模索する。

挨拶に代わり現況を報告させていただきましたが、同窓会活動の基本的問題は、古くて新しい問題であり、一朝一夕に解決するのは大変難しいと思います。しかし、そんな中、新しくスタートした業務IT化委員会は、若手メンバーの活躍が期待され、その動向は何か新しいものを生んでくれる希望につながると確信しております。

これからも会員皆様のご協力、ご助言を期待すると共に、ますますのご健勝とご活躍を祈念し、異例とはなりましたが、挨拶とさせて頂きます。

### 〈 目 次 〉

若手幹事に期待	1
朋友に寄せて	2
故池谷武雄電高初代校長を偲ぶ	3
皇居東御苑散策（クラス会報告）	4
ニュージーランドホームステイ記	5
学校の近況（高校だより）	8
（中学だより）	10
初めての国体（クラブ報告）	11
母校と同窓会の歩み	12
年次別卒業者数一覧	16
年次別担任・クラス委員一覧	19
活動報告	27
会則	31

## 朋友によせて

中学校・高等学校校長 高久廣毅



小金井キャンパスに文京区後楽の地から移転して11年を過ぎようとしています。移転当時、細かった桜をはじめとする植栽は巨木に成長し、春には見事な花を楽しませてくれるようになりました。

この間、社会は、少子高齢化、バブルの崩壊、不況と激しく変遷しています。そのような社会情勢の中で、学校は厳しい目で評価や選別が行われる時代になりましたが、平成8年に学則定員40名で開設した中学校は、平成12年には80名に増員し、平成11年からは中学校・高等学校同時に、1年生より男女共学としました。中学校においては開校時に掲げた特色ある理系教育、きめの細かい生活指導等が認められて優秀な志願者を集めています。

平成8年中学校開設と同時に入学した第一期生は、平成14年3月に中高一貫生として49名が高等学校を卒業しました。同時に中学校・高等学校から初めての女子卒業生が（中学校11名、高等学校82名）誕生し同窓会の会員に加えていただく事になりました。

平成14年より中学校の学習指導要領が改訂され、平成15年度からは高等学校の学習指導要領が改訂されます。新学習指導要領は、週完全5日制を前提に作成されているため各教科の授業時間数と教育内容は削減されています。

本校としては授業時間数の削減は学力の定着に大きく影響すると考え、授業総時間数の減少が生じないように計画し、学校週6日制として土曜日も開校しています。総合的学習の時間、土曜講座（補習、講習）、のほか学校諸行事を極力土曜日にまとめる計画で進行しています。

こここのところ大学と高等学校の連携について全国的に議論される機会が多くなっています。本校においては、平成8年に「教育の連携および電大推薦入学に関する協議会」を設置し、大学と中学校

および高等学校の一貫教育や大学への推薦入学制度について協議を行ってきました。平成14年度には協議の内容を「教育の連携に関する協議会」と「推薦入学に関する協議会」とにそれぞれ別に設け、今後について深く検討を加えることにし、すでに協議をはじめとしたところです。これにより大学の先生方から専門の魅力ある講義を受ける機会を多くの生徒ができるようになりますことになり、学問への興味と学習への意欲が増加することを期待しているところです。

### 池谷武雄先生のこと

（二工二代校長、高校初代・四代校長）

東京電機大学名誉教授で本校の校長先生をお勤めになられた池谷武雄先生の訃報が知らされたのは、先生のご遺志からご親族での「お別れの会」が終了してからでした。本年1月8日に104歳というご長寿でご逝去されました。先生から、ちょうど100歳のときに頂いたお手紙を、同窓生の皆様に同窓会誌であるこの『朋友』に披露し、ご冥福をお祈りいたしますとともに、ご高齢と関係なく明断なお考えをお持ちの先生にあやかりたいと思います。

高久廣毅先生  
冠省

PTA新聞「いなづま」にて貴稿「卒業の証」を拝読いたし今日の学校教育の現状に対する大きな警鐘であるところから敬服いたしました。英國の文豪…多分…カーライルかと記憶しますが、学校という所は生涯の良き友を作る場であると言っています。私は今年になってからこの良き友を2人(83歳と91歳)を失いまして讃美歌の『親しき友みな先立ちゆきて、小暗きこの世に独り残りぬ』という句を身にしみて感じ孤独の淋しさに打たれています。

このような心情は私の年にならないと実感として迫っていません。若い頃からよく考えておかなくてはならないことです。どうか先生のこのような高邁な精神を教育の上に推進されますよう心よりお祈りいたします。

駄文失礼しました。どうぞご自愛下さい。  
1999-3-9 池谷武雄  
(二伸) この手紙に対するご返信その他のことは一切ご不要にお願いいたしました、くれぐれも念のため申し添えます。  
以上

あえて同窓会誌『朋友』に掲載させていただく事をお許し願い、いつも豊饒とされていた先生を偲び、あらためてご冥福をお祈りいたします。

## 故池谷武雄電高初代校長を偲ぶ

元教員 河内正夫

—昭和初めからの大先生— 先生は昭和4年（1929）学園に招かれ以来、電機学校、東京電機工業専門学校、同工業高校、高校、大学の設立発展に尽くされ、その間、高校初代校長、電機学校長を歴任、学園顧問、名誉教授の大先生です。

—天寿を全う— 先生は明治31年（1898）1月24日、奈良県に生まれました。去る平成15年（2003）1月8日、満104才350日の天寿を全うされました。

—少年の夢— 小学生の頃の先生は、機械いじりが好きで、中学時代には蒸気機関車に夢中になり、早稲田大学の機械工学科に入ります。二年生の時に、国鉄（現JR）の大宮工場の実習生になり、機関車乗りの基本を学び、いよいよ実線を走りました。新宿、松本、名古屋、東京を一巡、750kmを走行したのです。石炭焚きから、勾配と蒸気圧の調整との関係、トンネルの煙に苦労したそうです。

—夢の転機— 木曾川沿いには、次から次に水力発電所があります。その風景にフト興味を惹かれて、卒業論文は水力発電にしました。若い頃は、いろいろ体験して自分の道を決めるのがよいと、先生はこの体験を語ります。

—水の会社へ— 卒業後（1920）は、電業社（ポンプ、水車の専門会社、現東芝水力部）に入り、水タービンの設計を担当しました。その当時は水力発電が主で、火力発電は従、水主火従といい、今と逆で水力が重要。特に戦後復興の原動力は電力に頼っていました。原動力の水車の改良などで、機械学会の水力部門委員の先生の仕事は増えます。その頃の先生は、電気学会、電力中央研究所委員などで多忙で、国際会議に出かけます。先生の水人生の始まりです。

—わが学園に招かれる— 先生が電機学校に招かれたのは、昭和4年（1929）です。学園の第2代理事長校長の加藤静夫先生が機械工学の実務に明るい技術者を教師に招きたいと、知人の早稲田大学理工学部長の山本忠興先生に頼み、先生の推薦により学園に来られました。先生の教育は、電気でも機械でも、上手に使いこなすには構造を知ること、図面を正しく読むことだと説き、実務製図をたたきこみます。私は昭和5年に入学して先生から学びましたが厳しかったです。

—学園の将来構想・工專、工業設立— 池谷先生は加藤校長から、将来、工専と工業学校をさらに大学を造りたいと構想を聞き、ぜひ協力したいと思いました。昭和14年（1939）に工専と工業（第一）、後に第二工業学校もでき、やがて戦争が終わりました。

—東京電機第二工業学校長 池谷武雄— 昭和21

年（1946）に先生が校長に就かれ、私が教務を担当しました。先生の教育方針は、自主性尊重でした。この意味は、今なら校長の権限で決められるようなことも、当時は理事会にはかり決められました。その思い出の一つです。

—都内軟式野球試合— 進めていくうちに、24校が残りました。ここまで残ると、生徒はぜひ応援に行きたいと強く望みます。戦後みんな意氣沈んでいる時に、一時でも生徒に喜びを与える教育効果は、校外教育の一環、校長権限であると職員会議で一致し、校長も黙認してくれました。当時は対外試合は、理事会の許可がいる。それでは間に合わない。全校休んで上井草球場集合にした。相手は名門攻玉社中学校、応援がすごかったです。勝てる相手とも思えなかったのに、9回の裏に来てしました。燃えた。その熱気でとうとう勝ってしまったのです。午後は芝商業だったが、1点も入らずストレート負け、でも朗らかに池谷校長先頭に駅まで凱旋取りで行進した。

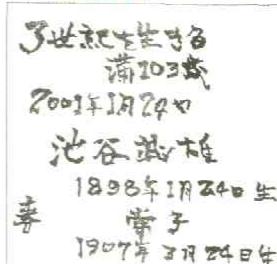
翌日、理事長から呼び出され大変に叱られた。次回気をつけますと謝ったら、一言「試合に行って来ますと言えば、勝って来いよと言うものを」と言われた。これ以後、対外試合の手続きは簡単になった。

—晩年の先生— 90才を越え、100才を迎えても、先生の精神力は盛んです。皆の前で数学パズルを見せたり、手品をします。きんさんさんはまた違った精神構造ですね。

### —絵日記、50年50冊—



・2000年の年頭に描かれた絵日記



・103才の先生に何か書いて下さいとお願いしましたら、寸時考えた後に描いてくれた色紙です。

先生は、スケッチが得意、やがて絵日記を書き始めたのが昭和26年（1951）です。1年1冊ずつで50冊になり、壮大な絵巻物で、宝だと言われます。その時々の感動した場面を描きます。後に見る程、価値が出ます。101才で肺炎を患い停止、50冊です。

〈クラス会報告〉

## 皇居東御苑散策

東京電機第一工業学校 S20年IE卒 綿井 彰

今年のクラス会は、善段なんとなく我々の意識の中にあるものの、あまり行く機会のない「皇居東御苑の散策と皇居近くのホテルでの会食」をテーマに行なった。

穏やかな秋晴

れの10月23日、午前11時、東京駅北口に集合した第1陣の級友5名が、いま話題の「丸ビル」の見学に出掛ける。75年ぶりに新しく建て替えられた地上37階、地下4階の「丸ビル」は、東京・都心の新名所として連日約10万入の人が訪れているといわれる。

やがて小1時間程して見学組が戻ってきたころ、小長谷(コナガヤ)電大中学・高校同窓会長や12時集合組の級友6名も揃い駅前からタクシーに分乗、皇居大手門前に到着「皇居東御苑」の散策コースに入る。

「皇居東御苑」は旧江戸城の本丸・二の丸と三の丸の一部で「皇居の東側地区」である。一同大手門をくぐり、見学受付所で許可札(無料)を受け取り外国人や一般見学者にまじり三々五々散策をはじめ。順路標識に従い旧百人番所・本丸入口・富士見櫓・松の廊下跡(忠臣蔵で有名な)・旧本丸の跡・天守閣跡・桃華楽堂などを見学ののち、汐見坂・梅林坂など約1.5kmほどの道のりを経て平川門から竹橋に出た。

「皇居東御苑」散策の感想は、本当に「訪れてよかった」の一言に尽きる。それはまず都心とは信じられない静けさである。次いで季節にふさわしい数多くの樹々や花々、そしてそれらがよく手入れされ、それらの景観がさきの静寂さと相まって、何ともいえぬ今はやりの言葉で言えば「癒し系の空間」をかもしていることである。

12時から約1時間の散策であったが、メンバ-



一同それなりに疲れたことは否めないが、ともかく元気で懇親会場の「KKR ホテル東京」に到着。11階「松」の間では、直行組と合わせ計15名の仲間と、中学・高校の高久校長、校友会の宮崎常務理事、そして同窓会の小長谷会長の出席を頂き、午後2時和やかな雰囲気で始まった。

冒頭、今年4月に逝去した級友、故櫻井献祐君のご冥福を祈り黙祷を捧げた。引き続きご来賓の諸先生から、学園、校友会、同窓会の近況などを伺ったのち歓談に移り、思い出話や近況報告に花が咲いた。

思えば我々電機第一工業(現電大高校の前身)三期生は国民皆兵の戦時下、ゲートルを巻いて通学したことが、今なお我々の記憶に鮮明なところである。東京が焦土と化した敗戦、それにつづく戦後の復興とその後の高度成長、それぞれの時代に各人が学校で学んだことを基礎に、職場、持場で知恵と汗をながし社会に貢献してきた。

F君は大学教授にI君は勲5等や藍授褒章の叙勲の栄に、又K.W君などは電子機器会社の社長や上場企業の重役になるなど、社会人として有為の人材になり、尚、職を全うしながら母校のため校友会、後援会、同窓会の活動に積極的に参加、ご恩返しと後輩のため微力が尽くせる幸せを感じている昨今である。

話は尽きなかつたが、やがて大手町のビル群に夕日が映える時刻になり、来年、元気での再会を約してそれぞれ帰途についた。

## ニュージーランドホームステイ記

平成元年電子科卒 椎名美臣

### ・はじめに

私がニュージーランド(以下NZ)に留学していたのは一時帰国していた期間を除くと16カ月弱。留学当初のビザはワーホリで、1年が過ぎてからスチューデントに変更、その間ホームステイをしながら語学学校で勉強し、折を見て旅行をしていた。初めての海外長期滞在だった。

### ・学校生活

生徒はアジア人が中心で、それにイスラエル系などの欧州勢と南米・中東人が混在していた。年齢は20代前半を中心として10代から60代まで様々。個性豊かなクラスメイトと親切な先生たちに恵まれ、学校生活は有意義だった。クラスメイトからも英語だけでなく人間の多様性なども学ぶことができた。たまにお互いの文化や考え方の違いによるコミュニケーション不全もあったが、それも過ぎてしまえばいい思い出。また、こういう言い方は好きではないけれど、日本人以外の生徒の方が日本人が失いつつあるという勤勉さや向学心があるように感じた。もっとも、日本人は英語目的以外で渡航している人も多いので単純に比較はできないと思うが。キーウィ(NZ人のことを言う)の友人が作れない、とぼやく生徒も国籍を問わず意外に多かった。学校はそういう機関ではないし、外国に住んでいて待ちの姿勢では友人を作るのは難しい。自分の特技を通して友人を作るのが定番だろう。



▼クラスメイトとブリティッシュレストランで夕食。アジア人は僕を含めて2人。アジア人はアジア人同士、ヨーロピアンはヨーロピアン同士で仲が良くなる傾向があるので、こういうシチュエーションは珍しいかもしれません。(左手前筆者)

私が入学したときのレベルはインターミディエイト(中級)で日本人はあまり多くなく、友人はほとんど外国人だった。当然英語を話す機会は十分あつたが、ストレスが溜まるとどうしても日本語を話したい時があり、そんなときはストレス発散が大変だった。日本へ電話をしてもよかつたと思うが、敢えて日本語を使わなかつたことが英語の考え方に入り組むのによかったのだと思う。例えば、学校へ通い始めて3カ月経つ頃、初めて英語で夢を見た。びっくりして飛び起き内容も覚えてないが、それ以降英語の考え方の理解度が深まつたようだ。もしそこで踏ん張っていなければ勉強の進捗は遅れていただろう。英和辞典を使わなかつたのも効果的だった。当然だけど英語の説明は英語である。それに翻訳すると意味が違ってしまう場合がかなりあった。



▼FCEコースの先生たちと、FCEコースを耐え抜いた勇敢なクラスメイトたち。コース最終日の卒業式にて。

学校生活の後半は日本では馴染みのないIELTS(International English Language Testing System: 英国連邦において、移住や留学のための英語能力試験)などの試験対策コースばかりを取っていた。外国の大

学へ進学したかったわけではなかったが、一般英語コースより多くのことを学べ、4つ全てのスキルを同時に急速に向上させるのに最適だと思ったから。その考えは正しかったが、FCE(First Certificate in English:日本では通称ケンブリッジ英検と呼ばれる)



▼僕の友人のスタンとサンダース隊長。

2人はニュージーランドの国連軍として戦争(朝鮮・マレーシアなど)に戦い抜いたつわものたち。コリアンベテランズ・朝鮮戦争を戦った退役軍人たちのパーティーでのワンシンankeと、第二次大戦で血縁者が日本人に殺されている人もいて、日本人に悪い感情を持っている人もいる。そういう人も中にはいるのでバーに入らない方がいいですよ、と注意されるらしい。スタンのおかげで入れた。通常、このバーに日本人が入ることはないとこれも異例かも。勲章の多い方が隊長。平均年齢76歳。

対策コースを履修中はあまりの作業量の多さと高い正確度が求められ、うんざりしたこともある。そのコースは、知識として英語は身についているし言われると分るが自分でなかなか使えない、という人に最適のコース。頑張った甲斐もあり、コース修了後は明らかに力が伸びているのを感じたが、間違っても数カ月の留学で英語が上達すると思わないこと。最低でも1年単位での滞在が必要だし、その前にも準備はしなければいけない。私は、厚生労働省の教育訓練給付金制度などを利用した。

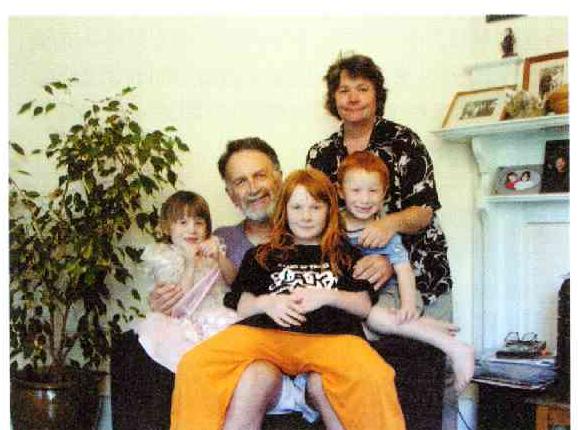
語学力向上に重要なのは授業に集中することはもちろん、それよりも放課後いかに英語に接する機会を増やすか、だと思う。復習ももちろん大事だが、それだけではなかなか伸びない。放課後クラスメイトと話す時間を作ったり、バス停や映画館で並んでいる人に気軽に話しかけて教科書英語と比較してみるのも一つのやり方。また、周りの人の会話に耳を傾け、新しいフレーズや単語、発音に注意して、分らないことがあれば次の日に先生に聞く。一つ一つは小さいが、それが後々活きてくる。私の場合、そういうことをやっていくうちにカフェやレストランの店員、バスの運転手とも仲良くなり、友人や情報をゲットした。注意しなければいけなかつたこと

は、アドバンス(上級)クラスで勉強している人は問題ないと思うが、それ以外の人は間違った英語を学校内で使っていてもきちんと英語を話している錯覚に陥る。なぜなら、お互いのレベルがほぼ同じなので間違てもなぜ間違っているのか、何を言いたいのかが理解できてしまうし、相手も理解しようしてくれるから問題なく話が出来てしまうのだ。その危険性を回避するため、私は工夫して会話をしていた。

#### ・ホームステイ

NZを選んだのは英語の勉強に最適だと思ったから。イギリスは日本並みに物価が高いのはもちろん、数多い方言と北米とは違う言い回し、食事が難点だった。どこの国へ行っても独特的の発音はあるが、NZ英語は英語と米語の中間に位置し、治安も比較的よく物価も安い、まさにうってつけだった。私は英語文化に接する機会となるべく増やしたかった。そのためにはホームステイがあさわしいと考え、迷わず決断。現地へ飛んでから子供がいるステイ先と学校を探した。

ホストファミリーはイギリス人のホストファザー、キーウィのホストマザーと子供が3人。ホームステイを始めたときはリスニングに苦労した。それもそのはず、いきなり飾らない活きた英語を聞くわけだからなかなか聞き取れなくて当然。そういうとき、子供たち(当時4歳と8歳)は大人よりゆっくり喋るから、彼らの言葉に耳を傾けて少しづつ慣らしていく。ステイ先での私の先生はその子供たちと言ってもいい。



▼ホストファミリー。幸せを絵にかいたような家族。

私のホストファミリーはとても社交的で、親戚や友人が頻繁に訪れるので、いろいろな人と話したかった私には理想的な環境だった。子供たちはやん



▼2001年の大晦日、大木(高校時代のクラスメイト)と万年雪を望みながらマウントクックビレッジに向う途中。空、雪、花のコントラストが美しい。

ちゃだったが素直で、子供たちの友人とも仲良く遊ぶことが出来た。これが、私の英語がペイビーイングリッシュだった原因かもしれない。

私が偶然いいホストファミリーに出会ったわけではなく、現地の文化などを予め調べてあったので、ほぼ違和感なく受け入れられたのがよかったのだと思う。ホームステイをしている人たちの中には、ホームステイをホテルと同じレベルで考えている人もいる。お金を払っているのは自分だから自分の求めた時に求めたものが欲しいなど。しかし、運悪く本当に不親切な人に巡り会うときもある。日本で得られる情報はいいものが大半なので、期待と違いにがっかりする人もいる。自分の希望をはっきり述べておき、おかしいな、と思ったら話し合う。また、基本的に日本人はきれい好きでマナーもいいので、どこでも喜ばれる傾向がある。

#### ・辛かったこと

日本人と韓国人の友人が日本でもお馴染みのシートル系カフェで話をしていた時、地元の高校生が2人の奇妙な発音を笑ったという。それに恥ずかしく思った2人は店を出たそう。その高校生たちは、外国語を海外で勉強する辛さを知らなかったのだと思う。私の友人は練習しているのだからそれにめげずに続ければよかったのだが、流暢に話せないと子供扱いされるのも事実。アジア人に偏見を持つ人もいる。先生によっては槍玉にあげられる場合もあると聞いた。

どこに住んでも地元とは勝手が違うことを感じる。海外なら尚更で、私は全く違う文化の特徴を理解することが大きなポイントの一つだと思う。その土地の長所・短所を理解し、それにあわせた対応

方法を踏まえれば快適な生活が待っていると思うが、そこに行き着くまでが試行錯誤の繰り返しだった。全く違う環境で生活すると大なり小なり影響もされる。それがいい方向に向ければいいが、自分を見失う人もいる。私は臆病な方なので、自分にマイナスにならないようになるべく内省するように心がけていた。海外に短期と長期で滞在するのはわけが違う。

#### ・旅行

最近NZのことを取り上げる番組が増えていくようだが、自然の美しい国だ。特に南島はそれほど緯度が高いわけではないのに氷河と万年雪が残り、秋には色とりどりの花々が絶妙な情景を醸し出す。秘境に気軽に足を踏み入れられる珍しい国で、自然を自然のまま残しているので普段から自然との戦いになることもしばしば。米尔福德サド(南島南西部にあるフィヨルドの入り江:世界遺産となっている)に行った帰りには雨で土砂崩れが起き、運が悪ければ巻き込まれていたところだった。日本のメジャーな観光地ではまず起こり得ないが、NZではそれが日常なのだからすごい。

NZでは小学生から外国语を学ぶ機会がある。かなりの人が日本語を勉強したことがあり、多少なりとも日本語を話せる。中には「私は忍術を勉強していました」という人に出会ったりもして、やはり間違った日本觀はいまだに存在するのだと、変に感心もした。

旅行は余暇を楽しむほか、自分の語学力を確認するのに役立つ。初めての土地で初めて会う人と話をすると、自分のレベルが分る。それも勉強の一助となった。旅行先で知り合って、オークランドに戻ってからも友人として付き合える人とも出会った。何人かは日本でも会えるかもしれない。

#### ・さいごに

10代の頃に留学していれば英語はもっと早く上達していたかもしれない。半面、私自身ももっと西洋文化に影響を受け、今持っている長所を失っていたかもしれない。私の場合、自分自身がある程度成熟してからの留学が功を奏したと思う。英語の資格はある程度のものが取れたし、苦労もあったが英語以外にも身につくことが多かった。特に人との出会いは他では得難いものがあった。

素直さと謙虚さを持ち、しっかりした価値観を持っていけば留学は有益なものになると思う。この留学は、私には大切な財産となっている。

## 高校だより

### ◆ 入学式 ◆

新入生代表にも女子が入るようになりました。



緊張の面もちの新入生代表



開校式…ちょっと不安げな生徒たち



2日目の夜はキャンプファイアです。  
班ごとに出し物を準備し、クラス協力  
して盛り上がります。

### ◆ 武蔵野祭 ◆

優秀部門には、毎年同窓会より表彰が行われています。平成14年度は、ポスター部門では金賞1名、銀賞2名、銅賞2名が、出展部門では、科学部と吹奏楽部が選ばれました。



## 学校の近況

### ◆ 清里「山の家」教育キャンピング ◆

昭和39年以来続く教育キャンピングは、本校の伝統ある行事です。1年生の夏休み、クラスごとに、2泊3日で行うのは、今も昔も変わりありません。清里寮は、若干の増改築はありましたが、開寮当時の面影を残しています。

しかし、寮周辺には、集会場や、調理室・風呂場などが整備されています。



2日目の夕飯と、3日目の朝食は自炊です。昔は、ラジウスで火をおこし、バッカンでご飯を炊きましたが、いまでは立派な調理設備が整っています。



2日目には、ハイキングを行います。ハイキング・コースは過去何度かの変遷がありますが、現在は、飯盛山登山を中心とするコースを利用しています。



2日目の夜はキャンプファイアです。  
班ごとに出し物を準備し、クラス協力  
して盛り上がります。

平成13年度が、中学校・高等学校共に、男女共学化の完成年度でしたので、現在、母校には全学年に女子が在籍する事になりました。

多くの卒業生を出した工業科が無くなったことは、卒業生の皆様から見ると、一抹の寂しさもあることと思いますが、母校は、21世紀、新しい教育理念と共に歩みだしております。その様子を、年間行事を追いながら、ここにご紹介いたします。

### ◆ 体育祭 ◆



高校女子のリレー



中学生による、みんなでジャンプ

### ◆ 合唱祭 ◆

男女共学になってからの新しい行事として、合唱祭があります。クラスごとの参加ですが、武蔵野祭や体育祭と同様、生徒の自主的な運営で行われます。

また、採点委員には同窓会長も来ていただき、優秀クラスには同窓会より表彰を行っています。



### ◆ 修学旅行 ◆

現在高等学校の修学旅行は、3泊4日をかけ、九州に行っています。見学地は、長崎と平戸を中心に、福岡の太宰府天満宮、吉野ヶ里遺跡、遊覧船による九十九島巡りなどです。他に選択コースとして、ハウステンボスと島原があります。

長崎は、様々な歴史を持つ街であり、また、原爆の被害を受けた土地もあります。そこで、史跡見学だけではなく、平和学習として、遺族会会长をお招きした講演会も行っています。



吉野ヶ里遺跡で説明を聞く生徒達

### ◆ 卒業式 ◆

いよいよ卒業式です。多くの来賓、保護者の方のご列席をいただき、厳粛な雰囲気で執り行われます。

式が終われば、下級生達が待っています。そこかしこで、記念写真を撮る生徒、プレゼントを渡す生徒、3年間の思い出を宝物として、毎年多くの生徒達が飛び立っていきます。



## 中学校だより

平成14年3月に中高一貫教育を受けた初の高校卒業生49名が卒立って行きました。詳しくは進路資料に譲りますが、東京工業大学、東京外語大など国公立大学に延べ6名合格、早稲田、慶應、立教、明治、などの私立大学に延べ81名合格しています。学校の使命として有名大学への進学実績を上げる事もありますが、生徒が学びたい内容を勉強できる大学に送ることも重要だと考えています。「電機大学中学・高等学校で6年間を過ごして良かった」という気持ちで進学してくれる同窓生を多く輩出できるよう努力して参ります。

中学校の定員は40名でスタートしましたが、現在は80名で共学となっています。各学年的人数は次通りです。

中学1年生は男子45名、女子42名

中学2年生は男子55名、女子37名

中学3年生は男子57名、女子34名。

この中には兄弟、姉妹で中学校に在籍したり、

ここで各学年での宿泊を伴う行事をご紹介しておきます。

中学3年生は京都奈良、飛鳥の修学旅行です。事前に見学地を決定し3泊4日の半分は班行動で自主研修する方法を取っています。思い思いのコースを気のあった友達と回るのは良い思い出になっています。

中学2年生では英語合宿が人気です。福島県の白河にて東京外語学院の施設であるブリティッシュヒルズを利用して行われます。現地スタッフは全て英国人で、英語のみ使用できます。授業も、英国のお菓子作りや、英国版ペン習字、スピーチコンテストなど多彩です。多くの中学生は3年間で一番楽しい行事であったと話してくれます。



修学旅行 京都・金閣寺にて



英語合宿  
職場体験国会議事堂にて



林間学校

## クラブ活動報告——自転車競技部

### 初めての国体

高等学校1年 林 一貴

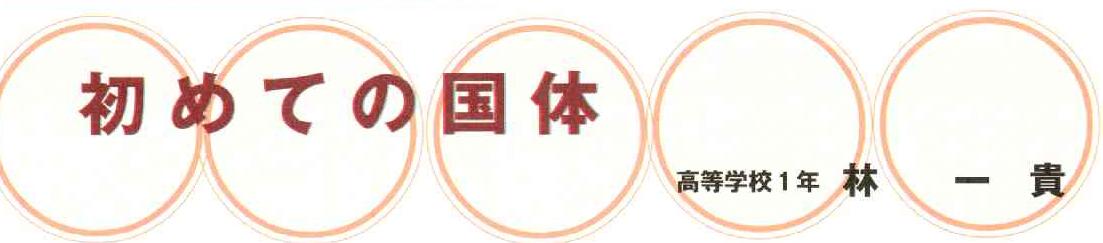
国体に出場が決まった時は、とてもうれしかったです。しかし、今まで400mバンクでしか走行した事がなく、高知の500mバンクの感じがどういうものなのかイメージがわからず、今の自分の力で各地の強豪選手が集まる中で戦えるのか、という大きな不安に駆られました。

#### ♪ 目標

今回の出場種目は1kmでした。入賞をねらいたいという気持ちもありましたが、とにかく自己ベストを出す事を目標にたてました。目標をたててから国体当日までどの様な練習をしたらいいのか…という問題にぶつかりました。色々な人からのアドバイスを基に、少しでもタイムを縮められる様、自分なりに工夫して練習を重ねて來ました。

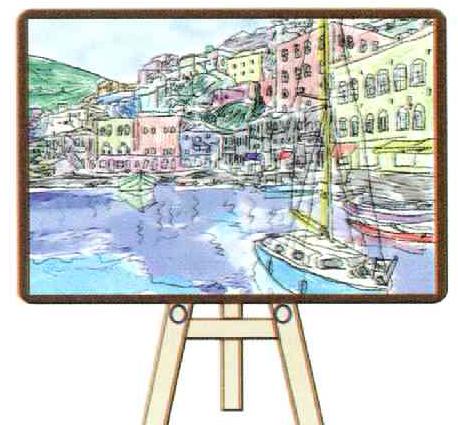
#### ♪ 緊張と不安の中で

あっと言う間に国体を迎える事となり、初めはあまり緊張感もなく自分の気持ちにも余裕がありました。いざ本番が翌日に迫った時には、やはりあせりと不安で一杯でした。当日、朝のパンク練習で少しリラックス出来たものの、スタート前強い風が吹いて来て、又心配になりました。とにかく今まで自分が練習してきた全ての力を出せる様全力で走りました。



その結果、ほんのわずかでしたが自己ベストを更新する事が出来ました。タイムを縮める事と一緒に全力を出せた事は本当によかったです。

僕にとって今回の出場は、他の人の走りを見て多くの事を学習することができます。とてもいい経験となりました。今回学んだ事を今後自分の練習に結びつけ、これから色々な苦難にも負けず立ち向かう力強さをもち、一生懸命頑張りたいと思っています。この気概があれば必ず道は開けると信じています。



## 母校と同窓会の歩み

年 月	学 園 ・ 時 事	同 窓 会
1907(明治 40)年 9 月	広田・扇本両先生によって高等学校の母校である電機学校創設	
1923(大正 12)年 9 月	関東大震災により木造校舎焼失	
1924(大正 13)年 12 月	電機学校私設無線電信電話局 JMYM 認可される。NHK 東京放送局に先駆け送受信を行なっていた。	
1928(昭和 3)年 11 月	NE 式写真電送成功	
1936(昭和 11)年 2 月	(2・26 事件発生)	
1939(昭和 14)年 4 月	実業学校令による東京電機工業学校(高等学校の前身)を併設。 昼間部・夜間部の課程を置く。	
1939(昭和 14)年 3 月	(第 2 次世界(欧州)大戦勃発)	
1941(昭和 16)年 12 月	(太平洋戦争勃発)	
1944(昭和 19)年 4 月	校名を電機第一工業学校と改称 別に電機第二工業学校を設置。	
1945(昭和 20)年 8 月	(広島・長崎に原爆投下、戦争終結)	
1948(昭和 23)年 4 月	学校改革により電機第一、同第二工業学校が合体して、電機学園高等学校となる。	
1949(昭和 24)年 3 月	普通科新設	
1952(昭和 27)年 5 月	電機第一、二工業学校廃止 電検認定制度が変更され、本校が第一次試験免除校に認定。	
1956(昭和 31)年 2 月	校名を東京電機大学高等学校と改称	
1957(昭和 32)年 4 月	文部省産業教育研究校に認定。	
1957(昭和 32)年 11 月	創立 50 周年記念式典を東京体育館にて挙行。	
1957(昭和 32)年 12 月	(一円札発行)	
1958(昭和 33)年 10 月	文部省産業教育指定校として、研究発表会を挙行。	
1958(昭和 33)年 11 月	丹羽保次郎学長、文化勲章受賞	
1959(昭和 34)年 1 月		高校同窓会設立の援助を校友会・および母校に願い出る。
1959(昭和 34)年 2 月		母校より同窓会設立準備金として 76,700 円下賜される。
1959(昭和 34)年 3 月		設立発起人会を開催。
1959(昭和 34)年 4 月		創立総会を本館 5 階講堂で開催。
1962(昭和 37)年 3 月	文京区後楽に高校校舎建設計画決定	校友会から高校同窓会設立を承認される。
1963(昭和 38)年 3 月	高等学校の教育課程改定に伴い 機械科、電子科、電気科、と改定する。	勤務地区別同窓会名簿を発行する。
1964(昭和 39)年 3 月		初めて校友会経由で入会金が同窓会に入る。
		総会でレリーフ基金募金開始を決定、募金活動を開始する。

年 月	学 園 ・ 時 事	同 窓 会
1964(昭和 39)年 6 月	山梨県八ヶ岳山麓に清里寮竣工。	
1964(昭和 39)年 10 月	(オリンピック東京大会開催)	千代田区地区同窓会、中央地区同窓会発足。
1964(昭和 39)年 11 月	文京区後楽に高等学校校舎ならびに体育館竣工、新校舎で授業開始。	
1965(昭和 40)年 4 月		
1965(昭和 40)年 6 月		小石川新校舎で初の総会開催。
1966(昭和 41)年 4 月		第 1 回の全卒者名簿の発行に協力。
1968(昭和 43)年		勤務地区別同窓会名簿を改定発行。
1969(昭和 44)年 3 月		レリーフ基金をもとに "若者の像" 製作。
1970(昭和 45)年 3 月		
1973(昭和 48)年 5 月		
1974(昭和 49)年 4 月		総会を兼ねて、湯島会館にて同窓会 30 周年記念、歴代校長を囲む会を開催。
1974(昭和 49)年 7 月		第 1 回クラス委員名簿(住所録付き)を発行。
1975(昭和 50)年 7 月		本年度より同窓会の新しい事業として、電機大学へ進学した新会員を対象とした、英語、数学の実力向上のため会員講習会を開催。
1977(昭和 52)年 6 月		第 2 回の全卒者名簿の発行に協力。
1978(昭和 53)年 6 月		
1979(昭和 54)年 6 月		本年度の総会で 53・54 年度の同窓会の事業として、創立 40 周年記念事業を推進することを決議。
1982(昭和 57)年 6 月		同窓会創立 20 周年記念と総会を『グランドパレス』にて挙行。
1982(昭和 57)年 11 月		高等学校創立 40 周年記念式典を「グランドパレス」にて挙行。
1982(昭和 57)年 12 月		東京私立中学・高等学校協会第四支部の支部長校となる。(任期 1 年)
1983(昭和 58)年 6 月		
1983(昭和 58)年 8 月		総会後第一工業・第二工業の卒業生を招待、小石川体育館で懇親会開催。
1984(昭和 59)年 6 月		第 3 回全卒者名簿発刊に協力。
1984(昭和 59)年 7 月		
1984(昭和 59)年 10 月		
1985(昭和 60)年 2 月		総会後池谷元校長より「絵についての思い出」講演、懇親会場にも展示
1985(昭和 60)年 3 月		総会後清水元校長「小石川移転の思い出」を講演、懇親会場に佐藤吉弥先生の絵を展示。
		同窓会 25 周年記念事業委員会で同窓会小冊子の発行を目的に編集小委員会を発足。

年月	学園・時事	同窓会
1985(昭和 60)年 6月		「エレクトロニクス先端産業と今後の動向」について S31 卒石川明氏、小石川体育館にて講演。
1985(昭和 60)年 10月		"朋友"25周年特別号を発行。
1986(昭和 61)年 4月		"朋友"を同窓会会報として継続発行することとなり、創刊号発行。
1986(昭和 61)年 11月	(伊豆大島、三原山 206 年ぶり大噴火)	第1回卒業生招待会(S17-S30 迄)を開催。母校からの招待者 240 名出席。
1987(昭和 62)年 1月		電高祭で「優秀賞」の表彰。
1988(昭和 63)年 3月	(世界最長、青函トンネル開業)	第2回卒業生招待会を後楽園会館で開催(S31-S40 年卒)
1989(平成元)年 5月	アイオワ大学工学部と推薦入学に関する協定書調印	第3回卒業生招待会を小石川校舎体育館で開催(S41-S46 年卒)
1989(平成元)年 11月	(ドイツ、ベルリンの壁崩壊)	高等学校 50 周年、第4回卒業生招待会(全卒業者)日中友好会館で開催。
1990(平成 2)年 4月	工業科を電子電気科、情報科学科に改編	同窓会創立 30 周年記念講演を卒業生
1990(平成 2)年 9月	小金井校舎地鎮祭実施	矢追純一氏(元日本テレビディレクター)「宇宙人は実在する!?」を講演。
1990(平成 2)年 11月		
1991(平成 3)年 1月	(湾岸戦争勃発、ソ連邦消滅宣言)	
	小金井校舎建設資金募集開始、目標金額 5 億円、期間 H3.1.1 ~ H5.12.31	
1992(平成 4)年 3月	小金井キャンパスに高等学校舎竣工	
1992(平成 4)年 4月	文京区小石川校舎から小金井校舎に移転。新校舎にて授業開始。	小金井新校舎で初めて総会を開催。
1992(平成 4)年 6月	電高祭から TDU 武藏野祭に改称	
1992(平成 4)年 9月	電気科、電子科、電子機械科を廃止	
1992(平成 4)年 10月	電機学校廃止。	
1994(平成 6)年 11月		同窓会機関紙 "朋友" をタブロイド版の新聞形式で編集、送付決定。
1994(平成 6)年 12月	東京電機大学中学校設置文部省に申請。	
1995(平成 7)年 1月	(阪神・淡路大震災)	
1995(平成 7)年 3月	(オウム真理教による地下鉄サリン事件)	同窓会 35 周年記念講演として、元巨人軍打撃コーチ中畠清氏講演。
1995(平成 7)年 7月		
1996(平成 8)年 4月	東京電機大学中学校入学式	第10回卒業生招待会開催(高校小ホール)
1996(平成 8)年 5月	東京電機大学中学校開設披露式挙行	
1996(平成 8)年 6月		第3回全卒業者名簿の発行に協力。
1996(平成 8)年 7月		

年月	学園・時事	同窓会
1996(平成 8)年 11月		新聞形式の "朋友" を従来の冊子形式とし、中畠清氏の講演を掲載。
1997(平成 9)年 7月		文部省、大学へ「飛び入学」を可能とする省令改正を公布、即日施行
1997(平成 9)年 9月		学園創立 90 周年記念式典を『東京国際フォーラム』にて挙行。日本人初の宇宙飛行士『秋山氏』が同会場にて記念講演。
1998(平成 10)年 6月		
1998(平成 10)年 8月		
1999(平成 11)年 4月		中学・高等学校男女共学となる。 高等学校の工業に関する学科(電子電気科・情報科学科)生徒募集停止
1999(平成 11)年 6月		創立 60 周年記念式典を高校小ホールで開催。体育館で東京電機大学学長小谷誠氏「超電導の世界」を講演後、祝賀会を吉祥寺第一ホテルにて挙行。
1999(平成 11)年 8月		
2000(平成 12)年 6月		
12月		
2001(平成 13)年 1月		
4月		高等学校の工業に関する学科(電子電気科・情報科学科)を廃止
7月		日本テレビ第 25 回鳥人間コンテスト選手権大会に出場
9月		同時多発テロ(アメリカ)世界貿易センタービル崩壊
2002(平成 14)年 3月		
4月		東京電機大学新学長に当麻喜弘氏就任
6月		
11月		東京電機大学同窓会創立 50 周年記念式典開催(椿山荘にて 629 名出席)

## 学校・学科・年次別卒業者数一覧

卒業年次	電機第一工業学				電機第二工業学校				小計		合計		
	第1本科		第2本科		併設中学	第1本科		第2本科		併設中学			
	電気科	機械科	電気科	機械科		電気科	機械科	機械科	電機第一工業学校	電機第二工業学校			
E	M	E	J	E	M	M	J						
S17	91								91		91		
18	51	85							136		136		
19													
20	101	91							192		192		
21	58	48							106		106		
22		100			133	50			100	183	283		
23	53	106			161	78	26	8	243	320	355	675	
24	116	65			359	190	49		566	239	805		
合計	379	586			520	401	125	8	243	1,511	777	2,288	

卒業年次	全 日 制						定 時 制						小計		合計					
	電 气 科						電 气 科													
	電 力 課 程		電 气 機 器 課 程		電 气 通 信 課 程		電 气 計 測 課 程		電 气 科	機 械 科	電 气 科	電 气 科	電 力 課 程	電 气 計 測 課 程	電 气 計 測 課 程	電 气 計 測 課 程	全 日 制	定 時 制		
E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	E <sub>3</sub>	E <sub>4</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	C <sub>1</sub>	C <sub>2</sub>	I	E	M	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	M	C			全 日 制	定 時 制		
S24									94	10							104	104		
25	54	52		64		39				42	44			209	86		295			
26	48	48	51	48	51		45			49	47	27	60	291	183		474			
27	51	50	57		46	43	53			40	46	50	37	293	173		466			
28	56	57			51	50				53		38	64	214	155		369			
29	48	37			62	55		30		47		40	39	232	126		358			
30	55	53			36	44	54	38		55		30	40	280	125		405			
31	55	49			59		58	56	33		50		28	57	310	135		445		
32	52	54			49		59	60	38		72		41	51	312	164		476		
33	56	59			55		63	63	48		55		36	64	344	155		499		
34	61	66			62		51	54	60		49		41	44	354	134		488		
35	56	59			52		60	65	56		59		48	54	348	161		509		
36	63				55		61	60	52		67		50	60	291	177		468		
37	62				64		61	64	66		73		65	65	317	203		520		
38	58	61			67		63		59		70		57	59	308	186		494		
39	60				49		56	53	54		62		53	55	272	170		442		
40	65				65		63	67	57		51		33	58	317	142		459		
41											47		47		52		146	146		
合計	1,694			974	1,433	591	94	10	1,125	637	859	4,692	2,725	7,417						

卒業年次	全 日 制								定 時 制		小 計		合 計	
	電 气 科			電 子 科		機 械 科		工 業 計 測 科	電 子 機 械 科	電 气 科	電 子 科	全 日 制	定 時 制	
	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	E <sub>3</sub>	D <sub>1</sub>	D <sub>2</sub>	M <sub>1</sub>	M <sub>2</sub>	I	M	E <sub>1</sub>	E <sub>2</sub>	C		
S41	68	66		68	69	54		62					387	
42	54	56	50	64	59	52		56		42	39	47	391	128
43	54	54		58	54	54		55		46	41	37	329	124
44	60	64	28	67	64	68		28		64	22	42	379	128
45	61	60		51	55	48	49			47		21	324	68
46	66	63		61	64	55	55			47		20	364	67
47	56	55		58	59	58	59						345	
48	50	51		52	52	53	53						311	
49	56	57		51	51	52	49						316	
50	55	52		61	63	49							280	
51	52	50		43	50	48							243	
52	59	59		58	56	50							282	
53	60	56		59	66	56							297	
54	51	55		49	51	52							258	
55	50	47		56	55	43							251	
56	49	50		49	51	51							250	
57	54	54		57	55	48							268	
58	50	47		51	54	53							255	
59	51	53		54	51	50							259	
60	50	50		43	43	50							236	
61	54	52		50	53	54							263	
62	49	52		54	51	46							252	
63	49	49		47	48					53			246	
H 1	54	52		51	51					50			258	
2	52	51		49	53					53			258	
3	45	49		51	51					54			250	
4	51	52		51	53					53			260	
合計	2,994													

卒業年次	全 日 制					合 計	
	普 通 科						
	L1	L2	L3	L4	L5		
S27	37					37	
28	30					30	
29	39					39	
30	47					47	
31	58					58	
32	42					42	
33	50					50	
34	50					50	
35	60	55				115	
36	55	54				109	
37	55	53				108	
38	51	55				106	
39	59	56				115	
40	63	64	60			187	
41	63	64	63	65		255	
42	60	63	64	62		249	
43	58	56	58	58		230	
44	60	53	53	51		217	
45	55	57	57	57		226	
46	54	51	54	57	54	270	
47	49	49	50	49		197	
48	54	54	54	53		215	
49	52	52	55	48		207	
50	51	50	51	51	50	253	
51	53	53	54	52	42	254	
52	52	54	53	51	52	262	
53	52	54	53	51	52	260	
54	55	56	56	56	49	271	
55	54	53	55	54	50	266	
56	47	49	49	49	47	241	
57	53	51	54	52	48	258	
59	51	50	49	50	51	251	
60	47	46	46	45	43	227	

卒業年次	全 日 制							合 計	
	普 通 科								
	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7		
S61	46	47	45	47		47	46	278	
62	54	53	54	54	52			267	
63	47	46	47	47	47	48		282	
H1	28	47	46	47	46	47		261	
2	30	49	49	47	47	47	25	295	
3	26	49	49	49	45	45		267	
4	24	43	41	43	41	41	L7・8 40	273	
5	L1・7 22	40	39	39	42	41		223	
6	L1・8 16	43	42	42	43	L6・7 40		226	
7	L1・8 27	40	39	39	40	L6・7 39		224	
8	23	45	45	45	44	L6・7 40		242	
9	29	32	33	41	37	L6・7 46		218	
10	22	44	44	44	46	27		227	
11	36	42	43	43	31			195	
12	40	40	37	41	24	18		200	
13	40	36	39	39	23	18		195	
合 計	2,175	2,017	1,755	1,690	1,203	507		9,435	

卒業年次	全 日 制 普 通 科												
	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8	L9	L10	L11	L12	合 計
H14	17	9	23	40	41	39	37	38	38	21	18	31	352

卒業年次	中 学 校			合 計
	A	B	C	
H11	28	27		55
12	26	25	25	76
13	31	31		62
14	19	20		39
合 計	104	103	25	232

## 学校・学科・卒業年次別担任・クラス委員一覧

高等学校は学制改革による、校名改称や学科改編等により、複雑なクラス分けとなっております。

現在493のクラスがありますが、今回クラス委員承諾書を返送いただいた方のみ、委員として掲載させていただきました。空欄になっているクラスで、実際に活動されているクラス委員の方のご一報をお待ちしております。

また、クラス委員の決定していないクラスの皆様は是非この機会にクラス委員を決定していただけるようご協力をお願い致します。

なお、昭和57年より高等学校同窓会会則改訂により1クラス、2名のクラス委員となりました。クラス委員は、各クラスの代表としてクラスと高校同窓会・校友会・高等学校とのパイプ役をお願いしております。委員の方には大きな負担をおかけしていますが、委員の同窓会活動は大変重要です。会員の皆様方もご協力をよろしくお願い致します。

### 【凡例】

18	清水 明	・上段 クラス担任
	豊田 健造	・下段 クラス委員

卒業年次	電機第一工業学校				電機第二工業学校				
	第1本科		第2本科		併設中学	第1本科		第2本科	
	電気科	機械科	電気科	機械科		電気科	機械科	電気科	
	E	M	E	J		E	M	M	
S17			稻垣 忠雄						
			内藤喜三郎						
18	堤 良富		清水 明						
	渡辺 和正		豊田 健造						
19									
20	清水 明		清水 明						
	高野 新吉		池ヶ谷道夫						
21	清野 明夫		作道 兵次						
	倉持 悅久		百石 哲						
22			服部 三郎				加藤 高治		
			栗屋 昭						
23	清水 明		吉田 宇一		磯部 直吉 原口 喜八 深海 登山司 金森 義一		早川 喜知 伊藤 克己		
	青木 仁				荒井 茂	清水 清			
24	清水 明	首藤 富家	吉田 宇一		原口 喜八	首藤 富家			

定 時 制						
卒業年次	電 气 科					
	電気科	機械科	電 力 課 程		電気機器課 程	電気機器課 程
			E1	E2	M	C
S 24	吉田 宇一	伊藤 克己				
	小竹 四郎	横山 実				
25		服部 三郎	吉田 宇一			
26		鈴木 徳三	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八	
		荒井 美喜		小沢 位	天野 勇	
27		横田良次郎	鈴木 徳三	伊藤 克己	原口 喜八	
					小林 健雄	
28		河辺 貞夫		首藤 富家	森田 恒久	
		佐藤 守弘				
29		鈴木 徳三		首藤 富家	角田 秀夫	
				北風 康夫	森 真	
30		河辺 貞夫		横田良次郎	板垣 光夫	
		宮田 利一		松本 和夫	菅谷 敏弘	
31		小針 藤男		首藤 富家	角田 秀夫	
32		河辺 貞夫		大渡 正治	板垣 光夫	
		茂木 実				
33		小針 藤男		大渡 正治	角田 秀夫	
		亀山 孝		与儀 正久		
34		角川 一治		小針 藤男	中島 輝夫	
					権津 利雄	
35		角川 一治		大渡 正治	中島 輝夫	
					池田 恒男	
36		桜井 松治		横田良次郎	中島 輝夫	
		野村 力男			富山 晃宏	
37		杉野 良知		桜井 松治	横田良次郎	
		石崎 泰司		北川清太郎	宮城 一治	
38		杉野 良知		下崎 和彦	大江 康男	
					中山 勇次	
39		大江 康男		吉田 宇一	白川 守昭	
					松枝 速雄	坂本 寛
40		吉田 宇一		下崎 和彦	松固 三夫	
41		見崎 正行	則友 克敏		長谷川裕一	
		小室 泰之	矢部 好雄		小杉 善美	

卒業年次	定 時 制		
	電 气 科		電子科
	E1	E2	D
S 42	楳 将	山崎 修快	鈴木 治郎
43	高久 広穂	人見 芳行	鈴木 治郎
	加賀 勉	厚谷 豊	井筒 幸二
	人見 芳行		鈴木 治郎
44	大石 四郎		小林 幸男
	鈴木 治郎		鈴木 治郎
45	金子 英司		
46	鈴木 治郎		鈴木 治郎

卒業年次	全 日 制							
	電 气 科				電 气 科			
	電 力 課 程		電気機器課程		電気通信課程		電気計測課	
E1	E2	E3	E4	M1	M2	C1	C2	I
S 25	高橋 源八	岩佐 徹			首藤 富家		角田 秀夫	
					服部 侠美		森山 満隆	
26	野口 茂	大江 康男	吉田 宇一	加藤 高治	佐藤 善鷹		中島 輝夫	
	加藤 正樹			中島 政貞				
27	平野 三郎	大渡 正治	林 六郎		中沢(齊藤)実	板垣 光夫	桜井 松治	
		岩田 康一			今井 昇		野瀬 健一	
28	野口 茂	角田 秀夫			桜井悌二郎		鈴木 藤男	
		青木 良造					渡辺 正司	
29	小西 吉孝	佐藤 善慶			中沢(齊藤)実		中島 輝夫	
30	川田 保夫							尾島 宗弘
31	林 六郎	神庭 明			大渡 正治	吉田 宇一	桜井 松治	大江 康男
		石塚 武夫			小野 荘一		柴山 茂男	守屋 正
32	杉野 良知	野口 茂			鈴木 徳三		吉田 孝俊	伏見栄治郎 伊藤 克己
	原口 尚久						森 健輔	坂井 孝志 小長谷 登
33	角川 一治	桜井悦二郎			中沢(齊藤)実		中島 輝夫	寺尾 功吉 伊藤 克己
34	倉林 純一				吉川 洋		増田 克己	柳 博
35	板垣 光夫	渡辺 明			吉田 宇一		桜井 松治	横田良治郎 大江 康男
36	飛田 健	閑 博			後藤 隆夫			
37	杉野 良知	鈴木 徳三			野口 茂	吉田 孝俊	伊藤 克己	
38	平岡 義宏				松下 祐輔		仲野 成憲	中野 善夫
39	佐藤 吉弥	吉田 宇一			鈴木 治郎	角田 秀夫	佐藤 善慶	大江 康男
40	北村 義明	名古屋 勲			鈴木 整司		見崎 正行	渡辺 黎一
							佐藤 善慶	白井光太郎 伊藤 克己
								藤田 安彦
41	板垣 光夫				小針 藤男			
	野口 茂				齋藤 広吉		大渡 正治	角田 秀夫 石川 孝志
	荒井 義久						柳田 佳孝	横溝 邦彦
42	大田 健	吉田 宇一			横山 実		鈴木 治郎	
							伊藤 克己	
43	形屋 憲一	佐藤洋志郎			石川 邦雄		細田 勝久	
44	中島 輝夫				小針 藤男		高木 政夫	白井光太郎 渡辺 大
45	中村 広幸				齋藤 広吉		三橋 慶二	渡辺 正行
46								川村登志一 倉本 靖

卒業年次	全 日 制							
	電 気 科			電 子 科		機 械 科		工業計測科
	E1	E2	E3	D1	D2	M1	M2	I
S 41	大田 健	大田 健		角田 秀夫	鈴木 治郎	横山 実		中田 勇
	石附 正				印宮 登		葵田 耕渡辺 高辛	
42	松岡 三夫	加藤 栄治	宮崎 登	白井光太郎	川島 純一	伊藤 克己		大江 庚男
	原 邦男			細山 昭一	平賀 徹			
43	斎藤 成信	中村 広幸		桜井 松治	菊地 諒	斎藤 広吉		渡辺 大
		和田 真一						
44	中村 一郎	中田 勇		高村 広昭	見崎 正行	村山 実		大江 庚男
	赤川富美樹	山越 茂雄		花嶋 秀年	大森 雅利	岡田 和恭		山井 康雄
45	宮崎 登	加藤 栄治		白井光太郎	川島 純一	松岡 三夫	横山 実	
	岡本 清次			松村 雅之	小川 晴夫	小野 善之	鳥飼 洋一	
46	大田 健	中村 広幸		白井光太郎	高村 広昭	石川 孝志	似藤 克己	
	川本 敏	秋山 清隆		石橋 和夫		田畠 有三		
47	鈴木 治郎	渡辺 太		見崎 正行	中村 隆一	大江 庚男	山田 宏明	
	大橋富士人	山畠 宏己		早坂 幸雄	持木 文男	谷田部 宏	船田 嘉章	
48	宮崎 登	加藤 栄治		松岡 三夫	川島 純一	大湯 幸夫	横山 実	
	山内 優夫	尾身 栄一		日野 一武	渡辺 敏章	林 達也	大羽 克己	
49	間辺幸三郎	高橋 源八		白井光太郎	大谷 稔	高村 広昭	中村 広幸	
	山口 孝博			高橋 康一	岡田 孝治		石塚 仁史	
50	高橋 源八	中村 隆一		見崎 正行	前嶋 万人	大湯 幸夫		
	高橋 裕司			大谷 茂	佐藤 仁	高瀬 勝義		
51	宮崎 登	鈴木 博		五十木基晴	大江 康男	横山 実		
	平井 広史	神田 庄一		柳川 守	吉田 邦男	池田 邦明		
52	間辺幸三郎	高村 広昭		菊地 諒	大谷 稔	横 将		
	大塚 徹			村上 裕一	前嶋 宏二			
53	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	宮本 治	大湯 幸夫		
	後野 明仁			秋山 益満	清水 敏久	本間 昭伸		
54	宮崎 登	田上 光治		前嶋 万人	大谷 稔	横山 実		
	稻田 浩二	吉田 優司		三輪 浩康	山際 康之	平澤 輝男		
55	松岡 三夫	津村 栄一		菊地 諒	高村 広昭	横 将		
	石井 和之 櫛原 俊行	手塚 勝		山田 富夫	鈴川 秀勝			
56	鈴木 博	中村 隆一		見崎 正行	林 幸男	横山 実		
	鈴木 孝治	山崎 育昭		鈴木 伸宏	新谷要治郎	横山 秀樹		
57	斎藤 広吉	則友 克敏		前嶋 万人	生熊 勝彦	山田 宏明		
				平沢 一寿	今尾 裕	早坂 勝浩		
58	鈴木 治郎	津村 栄一		見崎 正行	大見 芳行	山路 雅一		
	木村 武晴			山本 誠人		江部 智治		
59	鈴木 博	高村 広昭		向芝 京太	石川 孝志	横山 実		
	浅田 直樹 佐藤 和幸 齋藤 広吉	龜岡 和裕 星野 雅幸 大田 健		大曾根康史 松田 和哉	土屋 岳 松本 國	鈴木 久郎 鈴木 正成		
60	深見 孝一	宮崎 登		石井 俊一	染野 明 笠木 孝人	猪鼻 一芳 岩崎 道義		
	都村 栄一	鈴木 治郎		見崎 正行	生熊 勝彦	宮本 治		
61	中村 登	坂井 光利 幸保 信司 齋藤 広吉		鳴島 浩 増喜 太郎	大和田 誠 松下 慎一	新井 智也 山岸 岳人		
	近藤 大輔	木村 宏		中村 隆一	妹尾 敬	大湯 幸夫		
62	石田 亮	鶴澤 直紀 近藤 大輔		豊島 梶朗 木村 篤史	寺島 大 田中 篤史	村井 潤 堀 真一郎		

卒業年次	全 日 制				
	電 気 科		電 子 科		電子機械科
	E1	E2	D1	D2	M
S 63	大田 健	川口 純	前嶋 万人	五十木基晴	小峯 龍男
	村田 周也	石田 晋也	星野 信幸	川勝 真喜	佐藤 秀明
H 1	藤本 賢司	石山 隆	田口 明洋	永木 康弘	柳澤 恵行
	中田 勇	津村 荣一	見崎 正行	内山 章夫	古城 仁
2	桜力 寿弥 清田 昌紀	西野 采一 渡辺 浩成	池田 靖規 閑根 康史	清水 売一 矢澤 哲弘	白川 売悟
	鈴木 治郎	妹尾 敬	中村 隆一	上原 隆雄	大久保 靖
3	戸塚 敏朗 佐々木武志	草野 健一 高木 道夫	綱藤 智	中島 浩一 徳田 信康	玉手 秀典 野見 貴行
	大田 健	河野 吉伸	見崎 正行	深谷 哲弘	小峯 龍男
4	甘利 友朗 佐藤 淳	落合 崇 高橋 好晴	前田 隆 松本 信寛	村社 敏夫 渡辺 永寿	石沢 岳彦 久保田恭弘
	中田 勇	深川 紘司	内山 章夫	林 幸男	看松栄一郎
5	石井 英二 澤 雅祐	藤川 雅治 梅沢 康剛	立脇 竜 谷 伸彦	岡山 進一 而角 祐樹	中村 一道 吉田 康輔

卒業年次	全 日 制				
	電 子 電 気 科		情 報 科 学 科		
	D1	D2	D3	C1	C2
H 5	津村 荣一	止前 隆雄	平川 吉治	中村 隆	八百屋尚志
	中島 功 根本 雅範	田島 孝洋 背木 圭樹	片山 誠司 枳丸 弘樹	田島 真 平野 文崇	照井 博志 高橋 洋一
6	見崎 正行	河野 吉伸	五十木基晴	小峯 龍男	渡邊 盾夫
	福田 貴之 中山 竜一	石井 淳 原田 洋介	玉井 貴司 西田 哲郎	市川 大輔 達藤 好鏡	梅原誠之助 小家 一
7	前嶋 万人	平山 桂樹	内山 章夫	深谷 哲弘	生熊 勝彥
	稻垣 裕介 加藤 貴仁	西部 洋晴 林 大樹	柴田 亨 山本 和裕	岩本 雅輝 田原 裕之	飯塚 洋平 小池 信之
8	津村 荣一	大久保 靖	今福浩太郎	林 幸男	山内 雄司
	齋田 清隆 吉澤 博之	榎本 裕文 森川 圭一	恩田 拓 武田 知之	坂元 淳一 横山 聰	高橋 和義 宮田 悠輔
9	河野 吉伸	山崎 武光		小峯 龍男	鈴木 純
	相原 浩明 小村 亮太	鈴木 勝博 干野 夫一		佐藤 大典 吉川 满晴	森田 雅彦 松澤 雄生
10	前嶋 万人	陰山 稔		大湯 幸夫	深谷 哲弘
	越井 裕之 増田 隆裕	渡邊 芳弘 干野 雅史		稻光 隆史 庄司 寿一	佐藤 岳人 熊田 章央
11	津村 荣一	渡邊 盾夫		林 幸男	山住 直政
	大澤 青吾 柴田 雅哉	石田 雅也 藤井 穀		岡野 勝也 河村 洋行	篠原 昌司 吉田 好児
12	内山 章夫	前嶋 万人		小峯 龍男	松沢 俊也
	原 達哉 中村 德秀	石川 賢 長日部 賢		石川 仁寿 田村 秀峰	本村 峻二 島田 憲明
13	河野 吉伸	生熊 勝彦		大湯 幸夫	小松 寛明
	陶山 龍一 宮本 健太	小田 敬 篠田 雄生		長谷川達視 湯浅 善夫	谷 桂介 新井 義之

卒業年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L1	L2	L3	L4	L5
S 27	青木 成宗				
28	吉田 孝俊				
29	宮本 敏雄				
30	平野 三郎				
31	佐藤 吉弥				
	黒岩 藩				
32	大久保芳随				
33	神庭 明				
34	伏見栄次郎				
35	大久保芳随 北原 泰彦				
	笠井 武保 前嶋 万人				
36	神庭 明 大渡 正治				
	相川 祐三 植田 正昭				
37	伏見栄次郎 吉田 孝俊				
	藤田 明也				
38	大久保芳隨 伏見栄次郎				
	加藤 計夫 我妻 功規				
39	神庭 明 板垣 光夫				
	藤川 清生				
40	吉田 孝俊 伏見栄次郎 平野 三郎				
	渡辺 貞綱 高橋 新平				
41	大渡 正治 杉野 良知 石川 孝志 大久保芳隨				
	野村 仁 村田 陽一 松井 納				
42	中島 輝夫 山田 宏明 磯辺 昭二 白川 守昭				
	光木 保臣 戸江 栄一 大窟 敏夫				
43	補庭 明 石川 孝志 板垣 光夫 吉田 孝俊				
	上原 博通 宮沢 秀実 六反田和幸				

卒業年次	全 日 制				
	普 通 科				
	L1	L2	L3	L4	L5
S 44	山田 宏明 磯部 昭二 中村 圭佑 大久保芳隨				
	中村 悟 杉山 行男 渡辺 洋一 木伏 明人				
45	中島 輝夫 五十木基晴 則友 克敏 白川 守昭				
	菱田 豊彦				
	杉野 良知 横 将 板垣 光夫 高久 広毅 茂木 雅博				
46	大久保芳隨 磯部 昭二 斎藤 成信 高久 広毅				
	浅見 正一				
47	大久保芳隨 磯部 昭二 斎藤 成信 高久 広毅				
	浅見 正一				
48	中島 輝夫 人見 芳行 則友 克敏 白川 守昭				
	明石 弘一				
49	半田 孝 新井 建也 藤田 清				
50	杉野 良知 磯部 昭二 斎藤 成信 高久 広毅 山田 宏明				
	黒田 正人 川島 正春				
	秋山 公一				
51	石川 孝志 則友 克敏 人見 芳行 松岡 三夫 林 幸男				
	安藤 政旦 石井 正一 種田 光利 柴山 仁				
52	神庭 明 白川 守昭 板垣 光夫 中村 広幸 茂木 雅博				
	小野木広行				
	石渡 上				
53	杉野 良知 中村 圭佑 松岡 三夫 高久 広毅 斎藤 成信				
	白黒 香一 松岡 俊和 相原 浩一 速藤 史郎				
54	石川 孝志 則友 克敏 磯部 昭二 生熊 藤彦 板垣 光夫				
	宮本 真一 坂本 尚孝				
55	大江 康男 斎藤 成信 人見 芳行 林 幸男 茂木 雅博				
	花房 勤 貴田真一郎				
	生方 健二				
56	五十木基晴 中村 圭佑 宮本 治 高久 広毅 白川 守昭				
	大輔 昭彦 沢田 勉 吉永 雅彦 糸川 剛 道伝 弘昌				
57	大谷 稔 田上 光治 磯部 昭二 石川 孝志 板垣 光夫				
	木村康二郎 小林良太郎 小野寺智幸				
58	大江 康男 石井 和之 高村 広昭 横 将 松岡 三夫				
	岩本 健 及川 俊也 飯田 公司 岩井 厚 長嶋 岳治				
59	宮本 治 吉場 章二 高久 広毅 大谷 稔 白川 守昭				
	鈴木 幹也 内藤 剛 松島 克之 藤原 国之 加藤 剛 渡辺 泰幸 矢津 洋二				
60	山田 宏明 人見 芳行 林 幸男 磯部 昭二 山崎 晴康				
	宮田 寛 高田 剛史 京極 政宏 小宮山敏樹 今中 繁義				
	腰原 錠 坂田 朝徳				

卒業年次	全 日 制						
	普 通 科						
	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7
S 61	吉城 仁 則友 克敵 田上 光治 横 将 吉場 章二 飯島 稔						
	小俣 憲一 海老沢 浩 服部 義郎 岩見田慎也 木齊 央 山田 賢二 安達 三博						
62	白川 守 向芝 京太 高久 広毅 斎藤 成信 平山 桂樹						
63	大畑 和彌 森田 正明 佐藤 憲一 高橋 宏明 長谷川一之						
	渡谷 郁夫 佐々木 徹 永井 智人 平石 貞行						
64	山崎 晴康 人見 芳行 高村 広昭 石川 孝志 山田 宏明 大谷 稔						
65	高橋 政人 三谷 哲也 斎藤 貴治 小林 利行 長島 正美						
	福島 修 鈴木 理裕 阿由場宏之 中林 元						
H 1	中村 圭佑 林 幸男 田上 光治 向芝 京太 吉場 章二 飯島 稔						
66	大石 洋治 中西 勇人 入江 晴也 青木 健 石井久仁彦 小暮 忠 神保 秀樹						
	坂本 和規 山崎 武光 高久 広毅 宮本 治 生熊 勝彦						
2	佐伯鉢次郎 服部 正樹 河相 崇 青木 義幸 遠山 竹司 中村 孝一						
	小山 寛也 林田 英明 中村 博 田中 典明 高月 陽介						
67	斎藤 成信 人見 芳行 高村 広昭 八百屋尚志 則友 克敏 山崎 晴康						
3	和田 崇秀 沢田 和也 多胡 真宏 大鳥 直樹 山外 知一 浅野 貞行 藤井 宣彰						
	高田 忍 鈴木 勇 森 正直 大根 直哉 桜井 隆雄						
4	中村 圭佑 黒沼 康廣 横 将 田上 光治 向芝 京太 山崎 武光 飯嶋 稔						
68	横田 智寛 長澤 将章 五十嵐哲哉 田沼 瑞男 戸部 拓也 向後 隆産 田邊 敏宏						
	山口 潤 吉田 浩康 仁平 雅実 上屋 正明 矢古宇 卓 中村 真也 木野 岳人						
5	高久 広毅 宮本 治 大谷 稔 川口 純 妹尾 敬 大久保 靖						
	水野 泰介 小川 智成 飯塚 正基 中村 優之 山崎 啓吾 金子 泰夫 奥田 明良						
69	北川 研 田口 浩 鈴木 貴宏 山崎 啓吾 関口 昌宏 福田 弘明						
6	斎藤 成信 吉城 仁 高村 広昭 前田 輝明 吉場 章二 山崎 晴康						
	小殷 淳 沖 壮一郎 大野敬一郎 稲垣 洋行 浦沢 誠一 中野 德康 松本 剛						
70	小木 勇樹 米田 晴仁 田島 優彦 長南 和夫						
7	田上 光治 中村 清孝 人見 芳行 来山 裕 黒沼 康廣 飯島 稔						
	田中 哲也 関口 雅人 伊藤 謙志 高嶋 讓 北原 秀和 有馬 裕輔						
71	中西 俊輔 吉田 智久 田村 智文 高橋 寛 北原 富澤 宗介 竹内 将人						
8	宮本 治 八百屋尚志 上前 隆雄 大谷 稔 吉場 章二 平川 吉治						
	新井 政弘 在田 亮二 東 拓也 今井 亮介 太井 亮祐 浅井 哲也						
72	石井 守 若林 俊介 太田 達也 高原 宗一 加藤 寛志 比留間 潤						
9	向芝 京太 妹尾 敬 飯島 稔 前田 輝明 松澤 俊也 高村 広昭						
	田所 覚 清水 直広 渡辺誠一郎 工藤 太郎 三牧僚太郎 宮澤 克則						
73	野口 智弘 中村 誠 渡辺 学 松岡 雅之 山崎 裕幸 小岩 廉仁						
10	向芝 京太 人見 芳行 古城 仁 山崎 晴康 加藤 学 川口 純						
	阿部 俊哉 今井 寛 今井 健詞 金子 昌孝 茶屋道圭太 高橋 雄一						
74	小川 遼也 高橋堅二郎 木村 明紀 金井浩太郎 中田 勝也 水井隆太郎						
11	吉場 章二 平山 桂樹 米山 裕 前田 輝明 正田 康之						
	小川 太介 木村 太亮 内 直斗 梅田 和弘 仲村 友宏 内木 亮平						
75	白土 雅教 比恵島 豊 松井 智 岸原 章二						
12	上前 隆雄 妹尾 敬 飯島 稔 山崎 武光 高村 広昭						
	長谷部健太 加藤健次郎 杉田 真也 家田 義紀 酒井 徳之 杉本 大輔						
76	内藤 健三 岩波 剛史 中 俊典 野澤 明正						
13	向芝 京太 今福浩太郎 渡辺 勉 加藤 学 山崎 晴康						
	石原 春彦 牧原 康一 平柳 鈴司 横山 大志 岩井 雄介 西浦雄主介						
77	田村 純一 入谷 太基 横田 和弘						

卒業年次	L1	L2	L3	L4	L5	D1	D2	C1	C2
H 12	上前 隆雄	妹尾 敬	飯島 稔	山崎 武光	高村 広昭	内山 章夫	前嶋 万人	小峯 龍男	松沢 俊也
	長谷部健太	加藤健次郎	杉田 真也	家田 義紀	酒井 徳之	原 達哉	石川 賢	石川 仁寿	木村 峻二
	内藤 健三	岩波 剛史	中俊 典	野澤 明正	杉本 大輔	中村 徳秀	長日部 賢	田村 秀峰	島田 憲明
13	向芝 京太	今福浩太郎	渡辺 盾夫	加藤 学	山崎 晴康	河野 吉伸	生熊 勝彦	大湯 幸夫	小松 寛明
	石原 春彦	牧原 康一	横山 大志	岩井 雄介	西浦雄主介	陶山 龍一	小田 敏	長谷川達規	谷 桂介
	岡村 純一	平柳 鈴司	十川 基	入谷 太基	横隈 和弘	宮本 健太	篠田 雄生	湯浅 善夫	新井 義之

# 活 動 報 告

## 同窓会役員名簿

役名	氏名	卒年	役名	氏名	卒年	役名	氏名	卒年
名譽会長	高久毅		14・15年幹事	阿久津功	23	13・14年幹事	池谷	夫生二郎
会長	小谷登	31		木治	24		ヶ水	太郎
副会長	長泰司	37		野助	27		崎川	憲行
	石泰之	41		登勝	31		野崎	男司
会庶	小夫	54		之勇	34		館崎	保博
計務	内仁	50		太一	41		橋林	己治
	古憲	34		仁彦	45		藤田	章光
顧問	仲勇	45		浩修	45		辺賀	伸夫
參与	宇成	37		京安	48		野山	夫雄
	串幸			芝浩	49		邊橋	隆
	宮三	23		野城	50		口	
	松正	23	会計監査	田原	36	会計監査		
	青健	23		藤賀	53			
	鷺太	27		村切	H12			
	谷康	27		木山	H12			
	野茂	29		岩	H12			
	柴祐	30		横	24			
	松祐	34						
	萩宏	35						
	大忠	39						
	印克	41						
	塚登							

## 幹事会議事録

- ◆第399回幹事会  
5月9日(水) 於校友会館6階会議室  
議事 1. 12年度結果と13年度計画  
2. 理事、監事、幹事の承認

◆第400回幹事会  
6月6日(水) 於校友会館6階会議室  
議事 1. 第42回同窓会総会内容の確認  
2. 運営担当の再確認

◆第401回幹事会  
6月16日(土) 於小金井校舎1F会議室  
議事 1. 第42回同窓会総会の準備打ち合わせ  
2. 新役員の選出

◆第402回幹事会  
6月27日(水) 於校友会館6階会議室  
議事 1. 13・14年度新入役員の紹介、専門委員会の委嘱  
2. 13年度計画の再確認  
3. 会則改定について

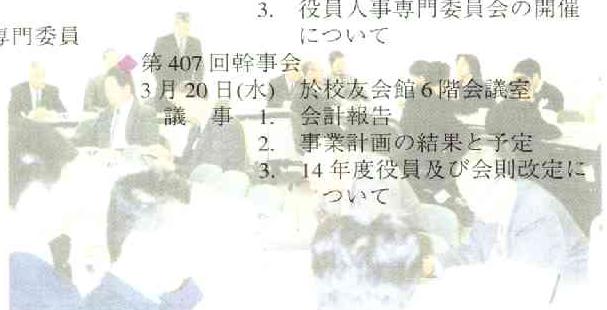
◆第403回幹事会  
9月22日(土) 於小金井校舎1F応接室  
議事 1. 13年度方針の確認  
2. 武藏野祭の評価  
3. 友朋の発行  
4. 会則改定について

◆第404回幹事会  
11月7日(水) 於校友会館6階会議室  
議事 1. クラス委員・教職員懇談会検討  
2. 朋友検討

◆第405回幹事会  
12月8日(土) 於神田キャンパス11号館17階  
大会議室  
議事 1. クラス委員、教職員、参与より意見提出

◆第406回幹事会  
2月6日(水) 於校友会館6階会議室  
議事 1. 事業計画の結果と予定  
2. 会計報告  
3. 役員人事専門委員会の開催について

◆第407回幹事会  
3月20日(水) 於校友会館6階会議室  
議事 1. 会計報告  
2. 事業計画の結果と予定  
3. 14年度役員及び会則改定について



## 平成 13 年度事業報告

- [1] 総会 於:小金井キャンパス  
平成 13 年 6 月 16 日  
1. 平成 12 年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認  
2. 平成 13 年度事業計画案、予算案の審議および承認  
3. 役員の改選  
4. その他
- [2] 同窓会誌「朋友」2001 年版の発行  
(平成 14 年 3 月)
- [3] 校友会のしおり発行への協力
- [4] 同窓会拡大幹事会(クラス委員を含めた)の開催(平成 13 年 12 月神田キャンパス)
- [5] 同窓会幹事・教職員・クラス委員と懇談  
(平成 13 年 12 月神田キャンパス)
- [6] 平成 13 年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収
- [7] 新クラス委員名簿改訂
- [8] クラス会を開催するクラスに補助金として 10,000 円を支給
- [9] OB 会を開催するクラブに補助金として 10,000 円を支給
- [10] 入学記念品として、キーホルダーを贈呈  
(平成 13 年 4 月)
- [11] 卒業記念品として証書録みの贈呈  
(平成 14 年 3 月)
- [12] 新会員に同窓会活動について説明会  
(平成 14 年 3 月)
- [13] 新クラス委員となる人と幹事との懇談会  
(平成 14 年 3 月)
- [14] 準会員活動武藏野祭優秀展示作品の奨励
- [15] 体育祭、文化講演会、クラブ活動等の活動援助
- [16] 卒業生招待会の協力  
  
記念事業資産  
中期国債ファンド:野村護券 1,500,000 円  
定額貯金:郵便局 501,000 円

## 会計監査報告

上記決算について、適正であることを認めます。

平成 14 年 6 月 15 日

会計監査

横山 真一・野口 隆

## 平成 14 年度事業計画

- [1] 総会 於:小金井キャンパス  
平成 14 年 6 月 15 日  
1. 平成 13 年度事業報告、決算報告、会計監査報告の承認  
2. 平成 14 年度事業計画案、予算案の審議および承認  
3. 役員の改選  
4. その他
- [2] 同窓会誌「朋友」2002 年版の発行  
(平成 15 年 3 月)
- [3] 校友会のしおり発行への協力
- [4] クラス会開催促進
- [5] 同窓会業務 IT 化開始
- [6] 同窓会拡大幹事会(クラス委員を含めた)の開催
- [7] 同窓会幹事・教職員・クラス委員と懇談
- [8] 平成 14 年度クラス委員に委嘱状と承諾書の発送・回収
- [9] クラス委員名簿改訂
- [10] クラス会を開催するクラスに補助金として 10,000 円を支給
- [11] OB 会を開催するクラブに補助金として 10,000 円を支給
- [12] 入学記念品として、キーホルダーを贈呈  
(平成 14 年 4 月)
- [13] 卒業記念品として証書録みの贈呈  
(平成 15 年 3 月)
- [14] 新会員に同窓会活動について説明会  
(平成 15 年 3 月)
- [15] 新クラス委員となる人と幹事との懇談会  
(平成 15 年 3 月)
- [16] 準会員活動武藏野祭優秀展示作品の奨励
- [17] 体育祭、文化講演会、クラブ活動等の活動援助
- [18] 卒業生招待会の協力

## 平成 13 年度決算報告

(平成 13 年 4 月 1 日～平成 14 年 3 月 31 日)

(単位:円)

収入		支出	
科目	実績	科目	実績
入会金 3,600 円 × 360 名(高校)	1,519,200 1,296,000	事業費 総会費	1,042,768 158,020
3,600 円 × 62 名(中学)	223,200	教職員・クラス委員懇談会費 クラス会補助金	279,000 330,000
補助金 普通預金利子	500,000 214	クラブ OB 会補助金 同窓会誌製作発行費	20,000 162,748
中期国債ファンド配当金	4,250	新クラス委員懇談会費 会議費	93,000 316,476
雑収入	100,000	事務通信費 諸費用	127,880 265,340
		予備費	0
		記念事業基金	501,000
小計	2,123,664	小計	2,253,464
前期繰越金	492,752	次期繰越金	362,952
収入合計	2,616,416	支出合計	2,616,416

## 平成 14 年度予算

(平成 14 年 4 月 1 日～平成 15 年 3 月 31 日)

(単位:円)

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
入会金 3,600 円 × 352 名(高校)	1,281,600 1,267,200	事業費 総会費	1,230,000 200,000
3,600 円 × 4 名(中学)	14,400	教職員・クラス委員懇談会費 クラス会補助金	280,000 350,000
補助金 普通預金利子	500,000 1,000	クラブ OB 会補助金 同窓会誌製作発行費	50,000 250,000
雑収入	100,000	新クラス委員懇談会費 業務 IT 化委員会事業費	50,000 50,000
		会議費 事務通信費	350,000 150,000
		諸費用	300,000
		予備費	115,552
		記念事業基金	0
小計	1,882,600	小計	2,245,552
前期繰越金	362,952	次期繰越金	0
収入合計	2,245,552	支出合計	2,245,552

## 委員会報告

### ● クラス会開催促進委員会

同窓会活動を活発化するため、まずクラス会の開催を促進しようとのこの委員会が発足し、同窓会として如何なることをすればクラス会開催がしやすくなるか検討・実践しております。

クラス会の開催状況を見てみると、良くやるクラスは毎年行う、やらないクラスは全くやらない、とに二分されます。やらない事例を分析すると、卒業してしばらくの間は実施していたが、幹事を持ち回り制にしたこと、ある幹事になってストップしてしまったケースと、卒業以来全く開催したことがないケースとに分かれます。

そこで、ここでは全く開催したことがないクラスには是非開催してもらいたく、会開催までの手順をご紹介します。

- (1) 幹事の決定（卒業時に決まっていたクラス委員でなくても、有志の誰でもよい）
- (2) 開催日時、場所、費用の決定
- (3) 校友会にクラス会開催の連絡（補助金の申請）
- (4) クラス員名簿の準備（校友会からクラス員名簿の提供を受けることができる）
- (5) 葉書の案内書作成・送付（副幹事数名と手分

### ● 業務 I T 化委員会

I T 委員会は、同窓会のホームページ制作と運営、そして同窓会の様々な文書等を統一して保存し、必要なときにいつでも参照できるように整備しておくこと、などを主な目的として昨年発足いたしました。ホームページ制作は、春頃の開設を目指して、現在コンテンツ等を検討している段階です。このホームページでは、同窓会からの一方的な発信だけではなく、ご覧になる同窓生の皆様からも様々な情報を発信していただけるように、双方向生を重視していきたいと考えています。具体的には、同窓会からの発信として、会長からのメッセージ、活動計画や報告、各種行事案内、クラブ活動報告、クラス会援助規定、幹事名簿など、そしてご覧になっている皆さんから自由に発信していただけるものとして、話し合いの場（掲示板）、クラス会便り、自由な投稿欄、同窓生のホームページへのリンク集・・・等々です。

次に、同窓会の文書統一保存ですが、幹事の皆様のご協力によりかなり整いつつあります。これらの資料は、現在幹事用のメーリングリストのホームページにアップされ、幹事の方々は自由に参照することができるようになっています。これについて

委員長 小室 泰之 (S 41 年)

けして行うと良い。電話でも良い)  
元担任の先生に出席のお願いをする

- (6) 当日会場での幹事役（副幹事を決めて役割分担すると良い）
- (7) 会場の費用精算

以上が開催手順の概略です。不明な点があれば校友会事務局までお問い合わせ下さい。

また、校友会に入会していただくことをお勧めします。入会すると機関誌が定期的に送られてきます。ここには、学園の近況や工学情報、恒例となった卒業生招待会開催のお知らせ、諸施設見学会の案内、卒業生が格安に利用できる諸施設の案内、法律相談等々盛りだくさんな情報を得ることができます。申し込みについても校友会事務局までお願いします。事務局の方が親切に対応してくれます。貴方が行動することで、懐かしい先生や級友との再会が可能となります。是非クラス会開催を企画してみてください。

ご意見・ご要望等をクラス会促進委員会までお寄せ下さい。

委員長 村田 耕治 (S 40 年)

は、同窓会会員の皆様にもホームページが完成した際には、差し支えのない範囲で公開していきたいと考えています。また、I T 委員会として、これら以外にも昨年は幹事用のメーリングリストを立ち上げるなどしており、今後メールアドレスの収集を推進し、メールによる連絡方法を普及させていきたいと考えています。この I T 委員会の現在のメンバーは別掲のとおりです。ついこの間まで現役の学生であった、とっても若々しい皆さんで構成することができました。これまでの同窓会は、若い方に参加していただけずに徐々に高齢化に向かっている傾向にありました。この I T 委員会が、これから同窓会を若返らせ、活気あふれる魅力たっぷりの会に変えていく起爆剤になればと思っています。なお、I T 委員会やホームページ等について、ご要望あるいはアイデアなどがありましたら、ぜひお寄せください。

#### 〈I T 委員メンバー〉

木村 峻二 (H 12 年) 岩切 昌樹 (H 12 年)  
平賀 大介 (H 12 年) 加藤健次郎 (H 12 年)  
寺田 史 (H 14 年) 渡部 裕也 (H 14 年)  
石崎 泰司 (S 37 年 / 同窓会副会長)

## 東京電機大学中学・高等学校同窓会会則

- 第1章 名称および事務所所在地  
第1条 本会は東京電機大学中学・高等学校同窓会と称す。
- 第2条 本会は主たる事務所を東京都千代田区神田錦町 1-4 東京電機大学校友会に、従たる事務所を東京都小金井梶野町 4-8-1 東京電機大学中学・高等学校内に置く。
- 第2章 目的  
第3条 本会は会員相互の親睦を図り併せて会員と母校との連繫を密にして母校の発展に寄与し、また東京電機大学校友会の事業遂行に協力するを以て目的とする。
- 第3章 会員  
第4条 本会の会員は正会員、準会員、特別会員よりなる。
  - 2 正会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校、東京電機工業学校、電機第一工業学校、同併設中学校、電機第二工業学校、同併設中学校、電機学園高等学校の卒業生とする。
  - 3 準会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校の在校生とする。
  - 4 特別会員は東京電機大学中学校、東京電機大学高等学校の教職員および退職教職員ならびに本会に特に功労あるものにして幹事会の推薦によるもの。
- 第5条 準会員、特別会員は議決権、選挙権、被選挙権を有しない。
- 第4章 役員  
第6条 本会には次の役員を置く。
  - 一 名誉会長 1 名
  - 二 顧問および参与若干名
  - 三 幹事 25 名以上 50 名以内(うち、会長 1 名、副会長 3 名、会計、庶務各若干名を含む)会計監査 2 名
- 四 クラス委員を各クラス 2 名、地域委員を各地域同窓会 1 名を置くことができる。
  - 7 条 名誉会長、顧問および参与は本会の求めに応じて意見を述べることができる。
  - 2 会長は本会を代表し、会務を総括し、幹事会の議長となる。
  - 3 副会長は会長の任務を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。
  - 4 会計は本会の会計を担当する。
  - 5 庶務は本会の庶務を担当する。
  - 6 幹事は会務を分担し、会の運営に当る。
  - 7 地域委員は地域同窓会を、クラス委員はクラス会を開催し、会との連絡を緊密にし、会の発展を図る。
- 第8条 会長、副会長の任期は 2 ヶ年とし再任を妨げない。
  - 2 幹事および会計監査の任期は 2 ヶ年とし、毎年半数を改選する。但し再任を妨げない。
  - 3 前 1 項および 2 項以外の役員の任期は 1 ヶ年とし再任を妨げない。
  - 4 役員に欠員を生じ、会の運営に支障あるときは補充をすることができる。但し任期は前任者の残任期間とする。
- 第5章 会合  
第9条 総会は毎年 1 回会長これを招集し本会の事業経過計画案、幹事および会計監査の承認、収支決算予算案の報告ならびに議決をおこなう。
- 第10条 幹事会は会長、副会長、幹事から成り、必要に応じて会長はこれを招集し、会務を審議決定する。
  - 2 クラス委員会、地域委員会は、それぞれクラス会、および地域同窓会の要望事項を協議し、幹事会に

	提案する。
3	クラス会、地域同窓会およびその他の会は隨時に開催できる。 各会を開催した場合は会長に結果を報告する。
第11条	幹事会の議決は出席人員の過半数の賛成を必要とする。
第12条	本会の業務遂行上必要あるときは、幹事会の議決により特別の委員会を設けることができる。
	第6章 会費および会計
第13条	本会に入会するものは会費を納入するものとする。 2 本会の会費は東京電機大学校友会費の納入を以ってこれを認める。
第14条	諸会合に要する経費は、その実費を徴収することができる。
第15条	会計監査は、本会の会計を監査する。
第16条	本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月末日に終る。
	第7章 会則の改正その他
第17条	本会則の改正は総会の議決を要する。
第18条	本会の運営上必要と認めたときは細則を設けることができる。
	付 則
	1 本会則は昭和35年4月17日より施行する。
	2 昭和46年5月15日 第6条第四項一部改正
	昭和47年6月27日 第6条第一項一部改正
	昭和50年6月7日 第13条第一項一部改正
	昭和56年6月27日 全面改正
	昭和57年6月26日 第13条第一項一部改正
	昭和60年6月22日 一部改正
	平成4年6月20日 一部改正
	平成9年6月21日 一部改正
	平成14年6月15日 第6条第一項三一部改正

## 《編集後記》

前2回の新聞形式フルカラー印刷は、お陰様で、綺麗で読みやすいと大変好評で、今回、冊子形式もフルカラー発行に踏み切りました。

バブル崩壊後の不況は、いつ脱出するか未だ先が見えず厳しい状況が続いておりますが、こんな時こそ、クラス会、同窓会の活発化は、旧交を温めるだけでなく、情報交換の場としても大きな役割を果たすものと考えております。

この冊子は、同窓会活動や母校の現況をお知らせするだけでなく、会員皆様のコミュニケーションの場としても活用して頂きたいと思います。

忌憚のないご意見や情報を寄せいただければ幸いです。

編集委員一同

## 東京電機大学中学・高等学校同窓会会則細則

第1条	名誉会長には東京電機大学中学・高等学校長を推戴する。
2	顧問は特別会員の中から、幹事会にて推薦する。
3	参与は会長(旧会則による幹事長を含む)の経歴のあるもの、または幹事(旧会則による常任幹事を含む)の経歴のあるもので幹事会の承認を得たもの。
4	会長および副会長は幹事会の互選で定める。
5	会計および庶務は幹事会の互選である。
6	クラス委員はクラス会より選出する。
7	地域委員は地域同窓会より選出する。
8	会則第12条による委員会の委員は幹事会の推薦により定める。
	第2条 本会の会費は、東京電機大学校友会の規約に定めるところによる。
第3条	本細則の改正は幹事会の議決を要する。
	付 則
	1 本細則は昭和35年4月17日より施行する。
	2 昭和56年6月27日全面改正
	3 昭和60年6月22日全面改正
	4 平成4年6月20日全面改正

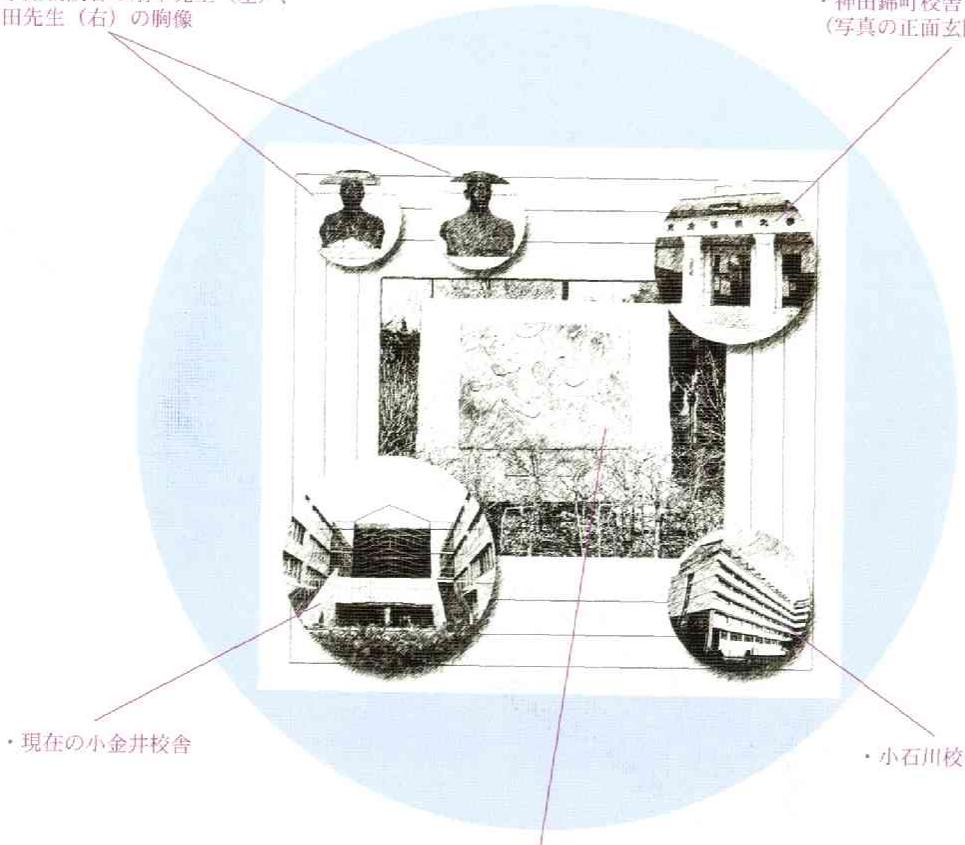
平成15年3月6日発行（非売品）  
〔編集兼発行所〕

東京電機大学中学・高等学校同窓会  
住所：東京都千代田区神田錦町1-4  
東京電機大学校友会  
電話：03-5280-3512

東京電機大学中学・高等学校同窓会  
住所：東京都小金井市梶野町4-8-1  
電話：0422-37-6441（代）

本学園創設者の扇本先生（左）、  
廣田先生（右）の胸像

・神田錦町校舎  
(写真の正面玄関は現在も健在)



・現在の小金井校舎

・小石川校舎 (S40~H4)

河部貞夫先生のレリーフ「若者の像」。  
学園創立60周年を記念して同窓会、学園、生徒  
会により制作されたもの。現在、小金井校舎の  
グランドの一隅に設置されている。

